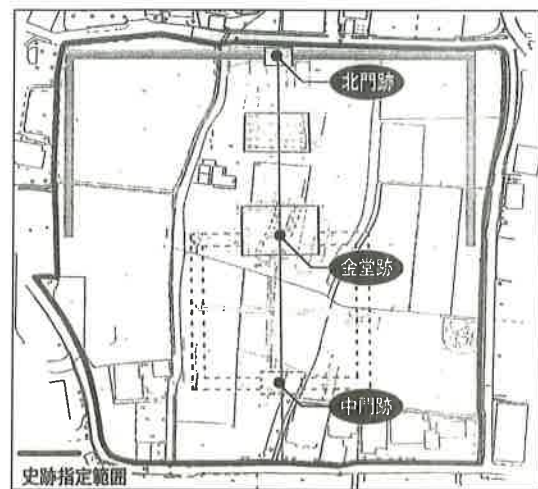


[3] 阿波の古代寺院を探ろう

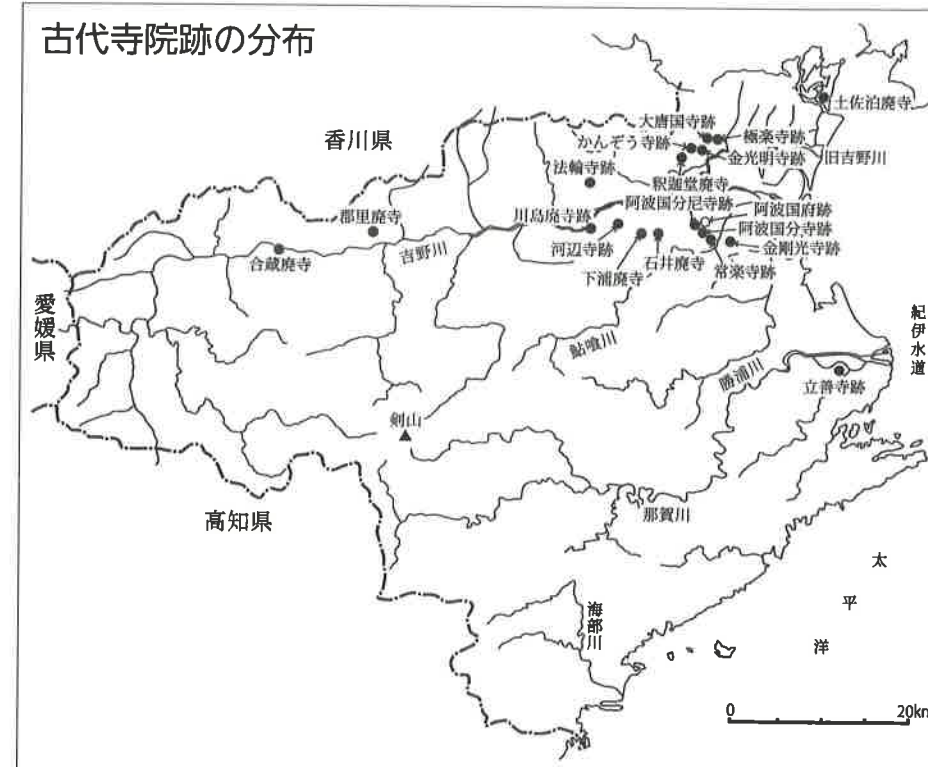
県内各地の古代寺院跡から、古代において仏教はどのように広がっていったと考えられるか、説明しよう。



阿波国分尼寺跡の復元図



阿波国分寺の塔心礎(塔の中心の柱を支える礎石)



川島廃寺跡出土の鬼瓦



石井廃寺で発掘された金堂基壇跡



国分寺と国分尼寺

奈良時代の半ば、仏教の力で国を守り、政治を安定させようと考えた聖武天皇は、741(天平13)年に「国分寺建立の詔」を出し、諸国に国分寺や国分尼寺をつくるように命じました。

阿波国(徳島県)でも、阿波国分寺と阿波国分尼寺が建てられました。これら二つの寺院の跡が徳島市国府町と石井町で見つかっています。徳島市国府町は、その名が示すとおり、奈良時代に国府が置かれた、古代阿波の政治や文化の中心地です。国府にほど近い地に建てられた二つの寺院からは、政治と仏教が密接に関係していた奈良時代の様子がうかがえます。



国分寺・国分尼寺跡から、何がわかるのかな。



阿波国分尼寺跡出土の瓦

瓦から見える仏教の広がり

現代の和風建物には、瓦屋根が用いられますが、かつては、草屋根や板屋根が一般的でした。日本の歴史上、最初に瓦屋根を用いたのが寺院です。瓦は、6世紀に寺院建築とともに大陸から伝わった当時最新の技術でした。こうした技術が中央から地方へと伝えられ、各地で寺院が建てられました。寺院には、大量の瓦が

使用されることから、寺院跡にある畑などでは、掘り出された瓦を拾えることがあります。徳島県内では、瓦の出土や発掘調査などにより、古代の寺院跡と考えられる場所が30カ所ほど知られています。

県内各地の寺院跡

主な寺院跡として、大化の改新の後(7世紀後半)に造られた郡里廃寺(美馬市美馬町/国史跡)、立善寺跡(阿南市宝田町)、奈良時代(8世紀)に造られた石井廃寺(石井町/県史跡)、河辺寺跡(吉野川市鴨島町/県史跡)、川島廃寺跡(吉野川市川島町)などがあります。寺院跡は、阿波国府の周辺や板野郡に集中していますが、阿南市や美馬市、東みよし町などにも見られ、各地寺院を建てたに有力な氏族がいたことがわかります。

身近なところに古代寺院跡があるかもしれません、注意して見てみましょう。



チャレンジ

◎皆さんの住んでいる地域の近くにも古代の寺院跡があると思います。発掘調査でみつかった建物跡や出土した瓦などを見学して、当時の様子を想像してみましょう。